

国際交流つうしん



p4 多文化共生出前講座（小学生版）



p8 世界からようこそ千葉県へ コソボ共和国

目

次

- P.2～3 特集 千葉県の災害支援体制がさらに強化されます！
- P.4～5 令和2年度 事業報告（9月～令和3年2月）
- P.6 令和3年度 事業計画
ICCA Researcher of the Monthを受賞して～MICE事業部～
- P.7 JICA千葉デスクのページ
- P.8 世界からようこそ千葉県へ！～コソボ共和国～

広告

水野外語学院

日本語で日本語を勉強します。
いろいろな国の人と
一緒に勉強します。

赤ちゃんが言葉を覚えるように、
楽しく、自然に日本語が話せるようになります。

MIZUNO GAIGO GAKUIN

〒272-0133 千葉県市川市行徳駅前4-19-14
TEL: 047-397-9645 FAX: 047-397-3078



広告

「日本語を教える」としたら **スリーエーネットワーク**

はじめて学ぶ
介護の日本語
生活知識と
コミュニケーション

介護に関する外国人の
ための日本語教材

シリーズ 第3冊! 好評発売中

はじめて学ぶ介護の日本語
生活知識とコミュニケーション

Part 1: 生活知識(初級レベル～)
Part 2: コミュニケーション(中級前半レベル～)
豊富なイラスト・写真・練習問題で学べます。
同シリーズ『基本のことば』『基本の知識』好評発売中!

最新刊や教材の使い方セミナーの情報等は <https://www.3anet.co.jp/>



三橋麻子・丸山真貴子・堀内貴子・鈴木健司 著
本体1,650円(税込) B5判



東日本大震災や熊本地震、西日本豪雨、千葉県内では昨年の台風や大雨被害など、最近は、自然災害が頻繁に発生しています。
災害に関する知識が少なく、日本語が十分に理解できない外国人の方は、災害が発生したとき、何が起きているのか理解できず不安を抱えていることが考えられます。
千葉県では、大規模災害が発生した際に、こうした方々を支援するため、「千葉県災害時多言語支援センター」を設置することとしました。

1. 千葉県災害時多言語支援センターは何をするの？

大規模災害が発生した場合の外国人支援の拠点です。センターは、(公財)ちば国際コンベンションビューロー内に置かれ、財団や県のスタッフが、ボランティアの方の協力を得て運営します。災害情報の翻訳や、多言語での情報提供、市町村窓口での通訳、避難している外国人を支援するためのボランティア派遣などを行います。

2. 外国人は何に困っているの？

①災害を知らない

日本は、世界で起こる大地震（マグニチュード6.0以上）の20%が発生している地震大国です。また台風や洪水なども多く、日本人は子どもの頃から身近に起こる災害を見聞きし、防災訓練を繰り返し、災害に備えています。対して外国人は、被災経験も災害に関する知識も少なく、災害が起こったときにどう行動したらよいのか、わからずにいます。

②災害情報や支援情報が得られない

日本語の理解が十分でない方は、メディアの伝える災害情報や市町村等が広報している情報が理解できません。情報が得られず必要な支援が受けられない場合があります。

③避難所生活のルールが理解できない

避難所では一時的に集団生活となります。避難所のルールがわからず、文化・生活習慣の違いを理解できずトラブルとなることがあります。



3. ボランティアは何をするの？

センターからの依頼を受けて、市町村などの発表する災害情報の翻訳や、窓口での通訳を行います。

また、避難所を巡回して避難している外国人へ必要な情報を届けたり、ニーズを聞き取って、避難所運営者や市町村へ伝えます。避難所のボランティアは被災した市町村の活動拠点へ入って活動しますので、活動内容やルール、心構えを学ぶため研修を受講するなど、事前の準備が必要です。



4. 災害時外国人サポーター養成講座とは？

県と(公財)ちば国際コンベンションビューローが共催で、毎年、県内各地で開催している、災害時にボランティア活動を行う方に向けた講座です。ボランティアの役割や「やさしい日本語」等の講義と、避難所巡回のためのグループワーク、外国人を被災者に見立てたニーズの聞き取りなどの訓練も行います。
養成講座に参加された方には、お住まいの市町村が被災されたときはもとより、県内で災害が発生したときにも活躍していただくことを期待しています。



困っている外国人の方がいたら、お知らせください！

災害時多言語支援センターでは、外国人相談も行います。

困っている外国人の方がいたらご紹介ください。

※千葉県外国人相談 TEL 043-297-2966



災害時外国人サポーター養成講座を受講して 災害時外国人サポーター 島倉 久美子



大地震を想定しての実地訓練の帰り道、私はひどく混乱していました。「友好的交流」「語学支援」を主眼に置いたこれまでのボランティア活動とは異なり、生命の危機が迫る状況で「外国人の不安やストレスに対峙する」という訓練を通して、自身の無力感に苛まれたためです。語彙力の低さ、地域の防災体制に関する知識不足、他者との協働の難しさなど、山積した課題が頭から溢れそうでした。帰宅後、反省と課題を一気にまとめました。日本は残念ながら自然災害発生が多い国です。災害時だからこそ、外国人は平常時より厚いサポートを必要とします。互いに寄り添い、助け合い、共に生きていくことの大切さとともに課題を知る機会となった講座でした。

1人でも多くの外国人に災害支援を カブレホス セサルさん（ペルー出身）

幼いころ、地震が起きたら真っ先に外にでよう、両親に言い聞かされてきました。ペルーの家は日本と違いレンガかコンクリートづくりのため、倒壊のリスクが高いからです。

11歳で来日し、初めて大規模災害を目の当たりにしたのは、1995年の3月に神戸市長田区で発生した「阪神・淡路大震災」でした。テレビに映る火の海、高速道路の頑丈な橋が、いとも簡単に倒壊していくさまは、とても現実に起きていることとは思えませんでした。

その後、「阪神・淡路大震災」で火事に見舞われ、命からがら逃げ出すことができたという、ペルー人女性に話を聞くことができました。その女性は日本語を話せず、2人の小さな子供を連れて、神戸市から親戚のいる大阪まで歩いたそうです。

2011年3月11日に発生した東日本大震災のことは、今でも鮮明に記憶に残っています。当時仕事をしながら、通訳ボランティアとして外国人をサポートする活動をしていた私は、移動中の電車の中で、突然経験したことのない大きな揺れを感じました。車内アナウンスを聞いて、私はすぐに事の深刻さを認識しましたが、近くにいた外国人夫妻は、きっと何が起きたのか想像もつかなかったのでしょうか。女性の方は、目を丸くして、両手で胸を押さえて座り込んでしまっていました。私はとっさに夫婦に近づき、アナウンスの内容を英語で通訳しました。震災を通じて、地震への予備知識がない、また言葉も不自由な外国人被災者のコミュニケーションをサポートする必要性を感じました。



私は、市町村が開催する災害時外国人サポーター養成講座を受講し、関係者の方々と情報交換を重ねてきました。いざという時に支援に役立つ情報発信や、通訳対応などの面でお手伝いをしていきたいと考えたからです。

2015年、所属している通訳会社で「緊急災害多言語サービス」のプロジェクトが始動しました。

支援情報を知ってもらうには、ホームページの多言語化やSNS等を通じて外国人住民とのネットワークを構築はもちろん、災害時に活動する団体と協力体制をとれるつながりを持っておくことが、とても大切だと考えています。

今後も、地域の国際交流協会や自治体の危機管理課、各国との領事館と協力し1人でも多くの外国人に支援情報を届けられるよう、活動していきたいと思えます。

令和3年度 外国人のための無料法律相談の日程が決まりました！（原則第1月曜日、通訳あり、要予約 13:00~16:00）

第1回	4月5日	第6回	8月2日	第11回	11月20日（第3土曜）
第2回	5月10日（第2月曜）	第7回	9月6日	第12回	12月6日
第3回	5月24日（第4月曜）	第8回	9月25日（第4土曜）	第13回	1月15日（第3土曜）
第4回	6月7日	第9回	10月4日	第14回	2月7日
第5回	7月5日	第10回	11月1日	第15回	3月7日

語学ボランティアの紹介について

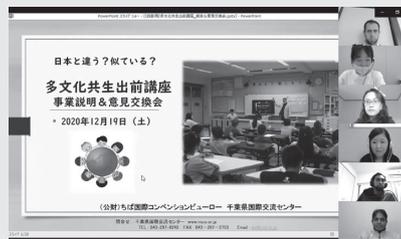
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在ボランティアの方の対面での活動を中止しております。法律相談、学校の保護者面談、児童相談所等、外国の方の支援につながる通訳については、オンラインや電話を活用した遠隔通訳をコーディネートしております。



多文化共生出前講座（小学生版）を実施しました！

千葉県国際交流センターでは、次世代を担う子供たちの多文化共生意識を養うため、学齢期に外国人と正しく交流し他者への寛容性を育み、多様な文化的背景を持つ人々と自然な形で協働できるようになることを目的とした、多文化共生出前講座（小学生版）を2か年計画で実施しています。

「日本と違う？似ている？」をテーマに、8カ国出身の講師の方にご協力いただき、令和2年度は千葉市立上の台小学校の5年生、成田市立八生小学校の3～6年生向けにモデル授業を実施しました。多文化共生出前講座は、子供たちが外国の文化や習慣について主体的に調べ、講師の出身国について情報収集を行う事前授業、外国人講師による講演、クラスで感想や意見を交換しまとめる活動や、発表などを通じて、多文化を体験できる参加型プログラムです。講演のテーマは、外国の生活習慣や文化の違い、学校生活、アニメ、遊び、スポーツなど小学生に身近な内容になっています。初めて見る外国の衣装や、お菓子のパッケージ、外国人講師が日本で体験したエピソードなどに、子供たちも興味津々の様子。実施校となった上の台小学校、八生小学校の先生方には、外国の文化に親しむとともに、クラスメートとの情報共有や意見交換を通じて、自分の意見を伝え、友達の話を聞くことの大切さも学ぶことができました。



◆講師意見交換会 12月19日【オンライン開催】

多文化共生出前講座（小学生版）について、来年度の事業説明及び意見交換会をオンラインで行いました。今年度の実績を振り返るとともに、改善点や新たな提案など、小学生に多文化共生について興味を持ってもらうために必要な学校側との連携の在り方について、またどのように授業を展開するかなどについて話し合いました。一般的に発信されている内容だけでなく、講師独自の視点で出身国について伝えていくことが大切だ、という貴重なご意見をお聞かせいただきました。参加してくださった講師の皆さん、ありがとうございました。

多文化共生出前講座（小学生版）・各校での実施について

子供たちが外国に親しみ、様々なバックグラウンドを持つ方々との「共生」について考えるきっかけとなる授業が展開できる基礎教材として、各学校でご活用いただける教材動画と学習指導案を公開しています。

各校で講座を実施する際は、講師の紹介を承りますので、ぜひご活用ください。紹介依頼については、ホームページをご参照ください。



多文化共生出前講座（小学生版）についてはこちらをご覧ください。

◆千葉県国際交流センターの紹介動画を公開しました！ 10月15日

当センターの活動を多くの方に知っていただくため、PR動画を作成し、ホームページに掲載しました。動画では、ボランティア活動、各種講座、イベント、外国人のための支援事業などを紹介しています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、残念ながら多くの事業が中止となってしまいましたが、オンラインも活用し、より多くの方に当センターを知っていただき、国際交流や多文化共生を推進していきます。



◆外国人児童生徒等の受け入れに関する運営・連絡協議会 10月21日

千葉県教育委員会が作成した「千葉県外国人児童生徒等教育の方針」について、当財団を含む関係者や有識者を交えて協議が行われ、行政担当者の情報交換、日本語指導担当員の配置等の指導体制、多文化共生の醸成促進など、さまざまな視点から議論がなされました。

◆日本語ボランティア情報交換会 10月28日【オンライン開催】

県内の日本語教室で活動されている支援者を対象に、オンラインによる情報交換会を開催しました。社会福祉法人さぼうと21の矢崎理恵先生を講師にお招きし、前半はコロナ禍での教室の活動事例やWeb教材などをご紹介いただき、後半はブレイクアウトセッションの機能を使って、支援者同士が数名ずつのグループに分かれて情報交換を行いました。オンラインを活用、感染症対策を徹底しての対面の再開等、それぞれの教室が工夫してコロナ禍での活動を続けていらっしゃるのことが分かりました。



◆ちば出前講座@クラーク記念国際高校 11月18日

コンボ大使館のアルバー・メフメティ臨時代理大使と、ウクライナ出身で、千葉大学に在籍するユリヤ・チェクホフスカさんがクラーク記念国際高校にて英語で講演を行いました。

ユリヤさんは、外国語の習得について、メフメティ臨時代理大使は、コンボの観光地や文化について写真や動画を交えて紹介しました。



◆災害サポーター養成講座・市町村向け 11月6日【オンライン開催・千葉県共催】

災害時における外国人支援について、市町村と県との連携の仕組み、多言語による情報発信、支援センターの立ち上げと運営の仕方などについて、県、市町村関係者及び民間支援団体の方々と意見交換を行いました。講師からは、もしもの時に直面する様々なシーンを想定し、日頃からの団体間の関係づくり等の準備を進めていくことが大切とのアドバイスがありました。

◆日本語ボランティア入門講座 12月8日・15日【オンライン開催】

これから日本語ボランティア活動を始めたい方を対象に、オンラインによる入門講座を実施しました。講師には、公益社団法人国際日本語普及協会の峯崎理恵子先生をお迎えし、2日にわたって行いました。1日目は基礎的な知識、2日目は教え方やテキストの例など具体的なお話をさせていただきました。

Zoomのチャット機能を使って受講者からたくさんの質問を頂き、終了後のアンケートでは、「話せるのと教えるのは違うということが分かった」、「日本語を教えてみたいになった」などの感想が寄せられました。



◆ボランティア活動促進分科会 12月14日【オンライン開催】

千葉県が主催するボランティア活動促進分科会では、オリンピック・パラリンピック後のボランティア活動の在り方について、学生ボランティア団体や、有識者と意見交換が行われ、当財団も委員として参加しました。

◆国際理解セミナー 1月22日【オンライン開催・千葉県共催】

埼玉県川口市の芝園団地事務局長の岡崎広樹氏を講師にお迎えし、「『共存』から『共生』へ～外国人住民を交えた地域づくりのすすめ～」をテーマに講演いただきました。講演では、人口4,800人の内、2,700人が外国人住民である芝園団地にて、生活習慣の違いや情報不足などから生まれる不信感やトラブル等を抱える中で、学生ボランティアや外国人住民を巻き込んだ交流事業と、「共生」への取り組みについて、事例や課題等の紹介がありました。参加者からは「自分も色眼鏡で見ていたことに気がついた」、「地域の多文化共生のヒントを得た」などの感想が寄せられ、大変好評でした。



◆国際交流・協力等ネットワーク会議 2月25日【オンライン開催・千葉県共催】

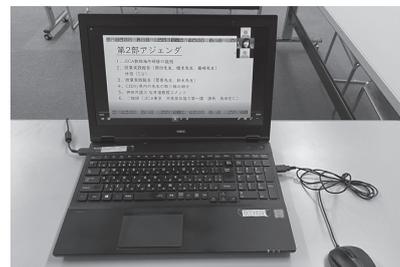
県内の市町村、市町村国際交流協会、民間国際交流・協力団体を対象とした連絡会議を行いました。千葉県、当センター、JICA東京の事業説明や団体紹介に加え、「市川市生活サポートセンター・そら」の相談支援員の定松栄一様に、相談の内容や対応、また外国人支援の課題などについての講演をしていただきました。ブレイクアウトルームの機能を使い、興味のあるテーマ別に4つの分科会に分かれて情報交換をしました。コロナ禍でそれぞれ悩みを抱える中、各団体の取り組みや課題を共有することができ、有意義な会議となりました。



◆国際理解セミナー 2月27日【オンライン開催・JICA東京共催】

JICA東京と共催で、国際理解セミナーを実施しました。第1部では、長年アフリカを取材している大津司郎氏が「メディアで報道されない本当のアフリカ～ジャーナリストが語るアフリカ紛争地から日本が学ぶべきこと～」と題した講演を行い、第2部では、JICA教師海外研修に参加した5名の教員が、授業実践報告を行いました。

大津氏によるアフリカでの命がけの取材や日本における報道に関する講演に続き、先生方による授業の中でディスカッションやオンラインを取り入れるなど工夫を凝らした国際理解教育実践について報告があり、長時間にわたるセミナーでしたが多くの方にご参加いただきました。



千葉県国際交流センター 令和3年度事業計画

事業	内容	時期(予定)
国際交流ボランティア制度	語学、ホストファミリー、文化、事業、日本語の各ボランティアの登録・紹介	随時
国際交流・協力等ネットワーク会議	市町村、民間交流団体や地域国際交流協会担当者等による情報交換	年1回
外国人相談担当者意見交換会	県内の外国人相談担当者向けの講演、情報交換	年1回
ホームページによる情報提供	在住外国人の生活情報やセンター事業等について発信(日・英・中・西・やさしい日本語)	随時
FACEBOOKによる情報発信	ボランティア活動情報、イベント情報、災害時等多言語情報などを発信	随時
会報「国際交流つうしん」の発行	当センターの事業及び県内民間団体の活動等を紹介する会報の発行	7,11,3月
千葉県外国人相談事業	在住外国人の電話・来所による生活相談への対応(13言語)	随時
外国人のための無料法律相談	外国人の生活上の法的問題に弁護士、行政書士が対応、通訳手配も可(原則第1月曜 行政書士は奇数月)	毎月
千葉県災害時多言語センター設置・運営	大規模災害発生時に、外国人住民向けに情報提供や相談対応等を行う	災害時
ちば出前講座	在住外国人・JICAボランティアOB/OG等を団体や学校等に講師として紹介	随時
多文化共生出前講座(小学生版)	外国人講師による出身国の紹介と、ディスカッションを中心としたクラス授業の実施	随時
国際フェスタ CHIBA	国際交流・協力団体の活動成果を展示等により、広く県民に広報	年1回
国際理解セミナー	県民に広く、国際理解を図る講座を開催	6~3月
日本語ボランティア基礎講座	日本語ボランティアについての基礎的な知識を学ぶ講座	7月以降
日本語ボランティア・スキルアップ講座	日本語ボランティアが日本語指導の向上を図る講座	7月以降
日本語学習支援者の集い	日本語学習支援者による情報交換	7月以降
外国人相談基礎知識研修(仮)	在住外国人の生活支援に役立つ基礎知識を学ぶ研修	6~3月
語学ボランティア講座(仮)	MICE関連事業やスポーツ大会等のボランティア活動について学ぶ講座	年1回

国際交流伝言板は、令和2年度をもって廃止致します。イベント情報はFACEBOOK等で発信します。

ICCA Researcher of the Monthを受賞して

(公財)ちば国際コンベンションビューロー MICE事業部 村上 愛美

ちば国際コンベンションビューローの事業のひとつである「MICE(マイス)」について、ご存知でしょうか？

MICEとは、
 企業等の会議 (**M**eeting)、
 企業等の行う報奨・研修旅行 (**I**ncentive Travel)、
 国際機関・団体・学会等が行う国際会議 (**C**onvention)、
 イベント・展示会・見本市 (**E**vent/ **E**xhibition)

のことで、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントの総称です。国際交流センターのボランティアにご登録いただいている方の中でも、国際会議の会場にて周辺のご案内など実際に関わったことがある方もいらっしゃるかと思います。

ICCA (International Congress and Convention Association : 国際会議協会) は、国際会議の振興を目的に1963年にオランダのアムステルダムで発足した国際的な業界団体で、現在は約100カ国1,100の関連団体が加盟しています。主に国際会議に関する情報収集や情報提供を行っており、ICCA会員専用のデータベースは、会員が各会議の開催実績や誘致に関するポイントなどの情報を追加することが出来ます。ICCA Researcher of the Monthは、そのデータベースの構築に最も貢献した人を月ごとに表彰するもので、8月に同賞を受賞致しました。

直接MICE主催者に会うことが難しい状況の中でも、ICCAデータベースなどを活用し、千葉県開催に繋がる可能性の高い案件の調査などを行ったことが受賞に繋がったものと思われます。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くのMICEは中止や延期など多大な影響を受け、それをきっかけとしてオンライン開催やハイブリッド(オンライン+現地)開催など新たな開催形態も生まれています。

当財団としては、今後も千葉県の発展に繋がるようなMICE誘致に引き続き積極的に取り組んでいきます。

MICE事業部では・・・千葉県が誇る多様な施設やバラエティに富んだ観光資源を活用した、国際会議やインセンティブ旅行などの " MICE " 誘致及び開催サポートを行い、地域経済の活性化に取り組んでいます。

詳しくはホームページをご確認ください！ www.ccb.or.jp/mice/



Researcher of the Month
August 2020

Manami Murakami
Chiba Convention Bureau

千葉県旭市で、動画でザンビアを紹介

東京2020でアフリカ・ザンビアのホストタウンに登録されている千葉県旭市にて、一時帰国中の協力隊員が動画を通してザンビアを紹介しています。

2020年3月、世界中に派遣されていたJICA海外協力隊員約1800名が新型コロナウイルスの影響で一時帰国を余儀なくされました。任期半ばで帰国し、任国に戻れないまま任期終了した隊員もいれば、任国の状況が落ちつき派遣が再開され、再び任国の土を踏めた隊員もいます。ザンビア共和国は未だに派遣が再開されていない国の1つです。

そして千葉県旭市は東京2020オリンピックパラリンピック時のザンビア共和国のホストタウンとして登録されており、昨年は市民の方々にザンビアのことを知ってもらうための催しを考えていました。

しかし新型コロナウイルスの影響で対面でのイベントなどは中止。学校も感染予防のため教室前方を向いての黙食になりました。

そこで、ザンビアのために何かしたいという一時帰国中のザンビア隊員がリモートで10分ほどのザンビア紹介動画を作成し、旭市の小中学校で給食中に放送をする、という企画が立ち上がりました。動画の名前はBwino Zambia (ブイーノザンビア)。Bwinoは現地語で「good」という意味です。名前の通り素晴らしいザンビアの魅力を紹介するため、ザンビアの学校の教室・生徒たちの様子や、子供たちが普段どんなことをして遊んでいるのか、ザンビア人がよく食べているおやつなど、実際に現地の人々と生活していた協力隊員だからこそ知る、幅広い40テーマ（1動画1テーマ、計40動画）で作成され、2021年夏までに毎月5動画ずつ放送されます。



動画は旭市の
Youtubeチャンネル
にて公開中です。
ぜひご覧ください。



千葉県内でオリパラホストタウン写真展が開催中です

千葉県内では、上記旭市含む、県及び20市町が、20か国・地域のホストタウンとして登録されています。その中には、皆さんの馴染みのない国もあるでしょう。そこで世界約90か国で国際協力をしているJICAと、ちば国際コンベンションビューロー スポーツコンシェルジュ、そして県内7自治体が共に、写真展リレーを企画しました。その名も、「ホストタウンで繋ぐ写真展リレー ～オリンピック・パラリンピックでお迎えする国を知ろう～」です。2020年12月より、写真展はその名の通り、県内をリレー形式で巡回しており、参加自治体・国は、横芝光町（ベリーズ）、旭市（ザンビア）、山武市（スリランカ）、木更津市（ナイジェリア）、佐倉市（ペルー、ボツワナ）、松戸市（ドミニカ共和国）、白井市（ブルキナファソ）です。また、それぞれの自治体の会場だけでなく、Stay Homeしながらも楽しめる写真展として、オンラインでも写真とキャプションを全て公開しております。



写真展の各会場詳細、
オンライン写真展については、
こちらをご覧ください。



千葉県国際交流センター内 JICA千葉デスク 国際協力推進員 木村 明日美
TEL : 043-297-0245 / 090-4024-0441
FAX : 043-297-2753 E-mail : jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp



世界からようこそ千葉県へ!

Kosovo 共和国



※外務省ホームページより引用

Kosovo 大使館のアルバー・メフメティさんは、臨時代理大使としての業務を担う傍ら、ビジネスにおいて関係の深い千葉県で、 Kosovo 共和国に理解を深めてもらうための講座を開催するなど、 Kosovo と千葉県をつないでくれる存在です。今回はメフメティさんに、 Kosovo の魅力についてご寄稿いただきました。

Kosovo について

Kosovo 共和国は、バルカン半島に位置する、ヨーロッパで一番新しい国家です。2008年2月17日に独立を宣言し、2010年国際司法裁判所によって、正式に認定されました。人口は約1,808,257人で、公用語はアルバニア語とセルビア語です。セルビア、マケドニア、アルバニア、モンテネグロと国境を接し、ギリシャから車で4時間以内です。国境は鋭い山々と峡谷が特徴の山岳地帯で、最高峰は西の国境にそびえたつ高さ2,656mのセラヴィツァ山です。



世界中のドキュメンタリー製作者やアート作家たちを魅了してきました。ヨーロッパの渓谷の中でもひととき印象的なのが、全長25km深さ100mのルゴヴァ渓谷です。岩に切り込まれた山に流れるビストリカ川は息を呑むほど美しい光景で、渓谷近くのペーヤの町はハイキングにぴったりです。ルゴヴァの山では、 Kosovo の人々に大人気のスキーが楽しめます。



Kosovo の経済

Kosovo は近隣諸国に比べて税金が安く、税制も単純明快。人口の70%は35歳以下の若く意識の高い労働者たちで、ヨーロッパの主要な言語を話す能力を兼ね備えています。石炭、亜鉛、鉛、フェロニッケルなどの天然資源や肥沃な農地も、 Kosovo に投資するメリットと言えます。また、EU経済圏へのアクセス、ビジネスの登録手続きの簡素化や整備された銀行制度、EU基準に則った法体制、通貨がユーロであることなどが、国内外の投資家の興味をそそります。独立後、 Kosovo は国としての安定した能力開発、安全性の向上、継続的かつ安定した経済成長など、多くの分野で進化を遂げ、市場の共有や、関税撤廃、貿易障壁の撤廃を目指して、地域経済の先導的存在として重要な役割を努めてきました。これからも今までと同様、EU加盟に必要な基準を満たすために活動を続けます。外交的には諸外国と友好的な関係を維持しつつ、現在CEFTA、IMF、世銀、EBRDの加盟国であり、WTOへの加盟を目指しています。

Kosovo の観光地



Kosovo の人々は、とてもフレンドリーで、いつでも困っている人を手助けするホスピタリティに富んでいます。 Kosovo で2番目の大都市であるプリズレンは、6世紀に東ヨーロッパ帝国によって建設された、必見の観光スポットです。パシャモスクや、ユネスコ世界遺産に登録されている聖母リェヴィシヤ修道院など歴史的な建物が立ち並び、 Kosovo の伝統的なライフスタイルを垣間見ることができます。プリズレンは、1878年7月10日に結成されたプリズレン連盟の中核として、アルバニアの民族運動の重要な役割を担っており、1881年には暫定政府がここに置かれました。また、国際フィルムフェスティバル(Dokufest)の開催地としても知名度を上げており、

広告

入管手続きは行政書士にお任せ下さい。

申請取次行政書士に申請依頼をすると、申請人本人は **出入国在留管理局への出頭が免除** されるので、 **仕事や学業に専念** することが可能です。

お問い合わせは…



千葉県行政書士会

www.chiba-gyosei.or.jp/

〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央4丁目13番10号
TEL: 043-227-8009 FAX: 043-225-8634



NEW!

千葉県国際交流センターのホームページへの団体名掲載や、団体様の主催イベントの広報サポートなどの特典を受けられます!

団体会員募集中

10,000円より

他にも特典
★イロイロ★

- ★ 会報誌「国際交流つうしん」を7月・11月・3月にお届け!
- ★ イベント、講座等のご案内をいち早くお知らせ!
- ★ 千葉県国際交流センターの主催事業を優待価格でご案内!



公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター

〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリブイースト14F
TEL: 043-297-0245 FAX: 043-297-2753 E-mail: ied@cbb.or.jp

<https://www.mcic.or.jp/>へgo!

センター事業の紹介、最新ニュース、講座やイベントなど役立つ情報を掲載。

年3回発行
(7,11,3月)